[**家族みんなでハッピー！シンガポールで過ごす夢の休日**](https://retrip.jp/articles/41244/)

次の家族旅行はどこに行こう。せっかくだったら子どもたちだけではなく、パパもママも心置きなく楽しめる場所・・・。今回は、移動の面倒や遊びや食事のつどつどの予約の手間を考えなくてOKの、ワンストップで遊べるシンガポールの次々とやることがあって、とどまることを知らない、そんな人気リゾートについて、じっくりご紹介します！

## 次のお休みはどこに行く？

次はどこに行こう・・・夏休みや冬休みの家族旅行プランを考えるのって楽しいですよね。  
  
ただ一方で、移動や食事、宿泊の手配、子どもたちが飽きちゃったときのプランなどなど考えはじめると、自分たちも楽しめるのかしら？と、ちょっぴり気が重くなってくるパパ・ママも多いはず。ましてや今はやりの三世代旅行などする際には、計画するだけで一大事。

そんな皆さんに最近オススメなのが「統合型リゾート」などと呼ばれる、遊びも食事も宿泊も、旅の楽しみの要素を全部、一カ所に集めた複合施設。特に海外旅行など、交通手段に不慣れで言語の違う場所に行く際には、徒歩圏内に欲しいものが全部あり、施設内では日本語のサポートが得られたりするので、すっごく安心なんです。  
  
その代表的な一つが今回ご紹介するシンガポールの「マリーナベイ・サンズ」。地上250メートルのところにある絶景プールでご存じの方が多いかもしれません。

## 参加型アート展示や探検隊気分の植物園など魅力満載の遊びがいっぱい

その魅力は沢山ありますが、とにかく遊びの選択肢が多い。しかも家族全員で夢中になれるようなアクティビティが揃っているんです。

### ArtScience Museum（アートサイエンス・ミュージアム）

まずはこちら。隣接するArtScience Museum（アートサイエンス・ミュージアム）では、日本のウルトラテクノロジスト集団「チームラボ」との共同で「FUTURE WORLD: WHERE ART MEETS SCIENCE」が常設展示されています。しかも今年の3月にオープンしたばかり。  
  
過年、東京の日本科学未来館で行なわれた彼らの「チームラボ 踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地」にご家族で行って、あまりの人気ぶりと混雑に、遊ぶのを断念して帰宅されたご家族も多いはず。

それがシンガポールでは1500平方メートルという大空間にゆったりと展開されており、思う存分に遊ぶことができます。こちらは、お子さんが自分好みにペイントした乗り物を専用のスキャナーで取り込むと、その乗り物が大画面の中で立体的に動き出し、そしてその乗り物を持ち帰りクラフトで遊べたりする「お絵かきタウン / Sketch Town」

ほかにも、様々な形・色のブロックを置き、道路、鉄道、水路などを自分たちでデザインしていく「つながる！積み木列車Connecting! Train Block」や、「象」や「月」など画面上の象形文字に触れると、それらが美しいイラストに姿をかえて動き出す「まだ かみさまが いたるところにいたころの ものがたり / Story of the Time when Gods were Everywhere」など、想像力が刺激され、テクノロジーに驚く体験型アートにたくさん出会えます。

### MasterCard Theatres（MasterCardシアターズ）

リゾート内には2つの巨大シアターも。「SHReK The MUSICAL（シュレック）」(5月８日～6月19日)や「Annie（アニー）」(8月24日～9月4日)、「WICKED（ウィキッド）」（９月29日～10月16日）など、大人気の演目が揃い踏みです。

言語は英語ですが、ミュージカルの良いところは誰もが知っているストーリーを、歌と美しい場面装置とで描いているところ。言葉なんてわからなくても、いつの間なら引き込まれちゃうんです。お子さんが英語の学習に目覚める機会としても活用できちゃうかも！？   
  
また、来場した際には、2014年に市川海老蔵よりマリーナベイ･サンズに贈られた、珍しい「押隈」も是非さがしてみてください。（シアターに入って、サンズシアター側の壁に飾られています。）

### Sands Skypark（サンズ・スカイパーク）

こちらはもう説明不要ですよね。「マリーナベイ・サンズ」のシンボル的な存在、3つのホテル棟を結ぶサーフボードみたいな巨大デッキ「Sands Skypark（サンズ・スカイパーク）」にあるインフィニティプール。なんと全長150メートルもあるんです。

ちなみにプールは宿泊者限定で、お子様用の浅いプールもあります。泊まってはいないけど絶景を臨みたい方は有料ですが展望台もありますし、同じ階にはなんと3つのレストラン「Sky on 57」、プールを見渡せる「スパゴ」、「Ce La Vi」で食事を楽しむのも素敵かも。 （お子様に入店に時間帯などの制限があるレストランもあります。）  
  
夜も11時までオープンしているので、昼間とは違った雰囲気を楽しめるはず！

### Gardens by the Bay（ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ）

ホテルの向かいには世界有数の植物園「Gardens by the Bay（ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ）」もあります。Supertree Grove（スーパーツリーグローブ）と呼ばれるこの巨大な人工の樹の上には吊り橋がかかっていて、上を歩くこともできるんです。  
  
毎夜行なわれるライトアップショーの荘厳さでも有名で、まるで映画『アバター』の世界に迷い込んでしまったかのよう！

こちらはGardens by the Bay（ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ）の中にある、天井高45メートルの巨大ガラスドーム「クラウド フォレスト（Cloud Forest ）」。赤道直下のシンガポールにいながらにして、あたかも涼しい高山にいるような気分に浸れるんです。  
  
ドーム内の35メートルの山には階段で登ることができ、そこから眺める滝や植物たちが、まるで夢の世界のように美しい。「植物園」という言葉のイメージが変わること間違いなしの体験ができる一押しスポットなんです。